

平成30年度 札幌バレーボール協会 運営方針

平昌オリンピックでは、カーリング女子が注目を浴び人気も高まっています。2年後の東京オリンピックにおいてバレーボール競技もよい注目を得られるよう男女とも必死の思いで強化に取り組みメダルにつなげてほしいものです。2018年はマスターズ、世界選手権といったビッグ大会が札幌で開催されます。これらに向けて札幌協会も人材育成など周到な準備と堅実な運営が求められます。

今年度も、各部の連携を密にして競技・審判・強化・指導普及を中心に力を合わせ、更なるバレーボールの振興・発展に尽力していかなければなりません。また、生涯スポーツとしてのバレーボールの魅力をアピールし、老若男女を問わず愛好者を増やしていくことも大切です。

小学生・中学生のバレーボール環境を整える取り組みは知恵を絞って引き続き検討していくこととします。

なお、指導者をはじめ関係者は自らの言動について、批判などを受けることのないよう十分注意することとします。体罰・暴力は論外です。

これらのことを踏まえ、次の基本方針をもって今年度の事業を計画いたします。

- 1 「春高 第71回全日本バレーボール高等学校選手権大会」などの主管する大会を、協会の組織を挙げて取り組む。
- 2 北海道協会、近隣協会、登録チーム及び友好団体との連携を密にして、組織的かつ機能的な協会運営とバレーボール愛好者の増加に努める。
- 3 競技スポーツとして全道的・全国的な視野に立って、チームの競技力向上・強化に努める。
- 4 小学生を含むジュニアチームの積極的普及・指導・強化を推進し、ヤングバレーボール・U14の充実に努める。合わせて、指導者の一層の資質向上を図り、指導者資格の取得も推奨する。
- 5 関係友好団体と協調のうえ、生涯スポーツとしての一層の普及発展に努める。
- 6 質の高い審判員養成と若手審判員の発掘・育成に努める。
- 7 全ての大会が適正に運営できる競技役員の養成に努める。
- 8 ボランティア精神に富む若手スタッフの発掘と役員登用を進める。